

プレスリリース
平成 29 年 12 月 11 日

報道関係 各位

全国農業協同組合中央会
(J A 全 中)

**第 42 回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール
内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞・農林水産大臣賞ほか各賞が決定
～平成 30 年 1 月 13 日（土）13 時～14 時 表彰式を品川プリンスホテルで開催～**

小・中学生を対象に、毎日のごはんでおいしかった思い出や、家族とのコミュニケーションなど「ごはん・お米」にまつわる作文・図画を募集し、優れた作品を賞する「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの内閣総理大臣賞をはじめ各賞が決定しました。

今回の内閣総理大臣賞は、作文、図画ともに、稲作と米食が日本人の心や生活に大きく影響していることに気づき、日本の大切な文化として未来へと継承していきたいという思いが表現されています。

昭和 51 年から開催し、今年で 42 回目を迎える本コンクールは、JAグループが推進する「みんなのよい食プロジェクト」の一環として実施しています。これからの食・農・地域を担う子どもたちに、ごはん・お米はもとより、国土を豊かに作り上げてきた稲作をはじめとする農業についての学びを深めてもらい、また、優れた作品を顕彰することを通じて、ごはん・お米の重要性を広く周知することを目的としています。

今回の応募点数は作文部門 54,115 点、図画部門 72,539 点でした。各都府県での審査を経て、11 月 28 日（火）および 29 日（水）に東京・大手町の JA ビルで全国審査会（審査会委員長＝中村靖彦氏（東京農業大学客員教授・農政ジャーナリスト））を開催しました。審査の結果、内閣総理大臣賞（2 名）、文部科学大臣賞（6 名）、農林水産大臣賞（6 名）、全国農業協同組合中央会会長賞（6 名）、優秀賞（90 名）、学校奨励賞（14 校）が決定しました。（p2、3 参照）

表彰式は、平成 30 年 1 月 13 日（土）13 時～14 時に、東京・品川プリンスホテルにて開催します。是非ともご取材いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。取材に当たっては別紙（p7）をご参照ください。

<添付資料>

・受賞作品ご紹介 ・コンクール概要 ・表彰式ご取材申込み書

この件に関するお問い合わせ先

※作品内容の照会、データについて

作文・図画コンクール全国事務局（日本農業新聞広報局事業開発部内）担当：岡田、糸山
TEL：03-5295-7410 FAX：03-5295-3370 携帯：080-5943-5917 e-mail:sakuzuga@agrinews.co.jp

※取材対応について

作文・図画コンクール広報事務局 担当：松本
TEL：03-3457-7571 携帯：090-6111-9766 e-mail:matsumoto@medico-pr.co.jp



内閣総理大臣賞（1位相当）

部門	部	都道府県	学校名	学年	受賞者氏名	作品名
作文	第3部	奈良県	奈良女子大学附属中等教育学校	2年	吉中 涼	助け合い
	講評	受賞者が暮らす桜井地区は、80年以上昔から田植えの時は、上流の田が優先的に水を使えるしきりがある。また、限られた水を引くときは、助け合いをしている事実を知る。「助け合う」ということを部活動や祖父の死など身近なところと引き合わせて考え、そうした精神をも稲作と共に継承していくことを中学生らしい視点で表現している。徐々に問題にフォーカスしていく書き出しも見事。				
図画	第3部	三重県	鈴鹿市立白子中学校	3年	加藤ひろな	めっちゃおいしいね！
	講評	遠足での昼食なのだろう。題名の通り、おいしいお弁当を広げ、幸せこの上ないという表情を描き表した見事な情景である。構図も彩色も完璧で、心打たれる作品である。屈託のない笑顔と明るい画面に、この作品を目にする人は皆、幸福感に浸ることができるだろう。選出にあたって審査員全員をうならせた。				



文部科学大臣賞（2位相当）

部門	部	都道府県	学校名	学年	受賞者氏名	作品名
作文	第1部	広島県	三次市立三和小学校	3年	亀谷 仁	発見したよ
	講評	田植え体験だけでなく、その後の稲の様子もよく観察している。そうした中で抱いた疑問を、祖母に聞きながら解決していく会話がほほ笑ましく、ぬかやわらの活用まで広がる。今、求められている主体的な学びが実践されている。文章も体験に基づいているため、力強い。				
	第2部	東京都	筑波大学附属小学校	5年	雨宮龍ノ介	どこで作られたお米？
	講評	社会科で福島県の米作りの苦労を学んだ。それまでは、福島県産農産物を購入することもなかったが、風評被害の厳しい現実を知り、福島県の米を自分の小遣いで買い求める行動力が素晴らしい。社会的な問題を、5年生の視点でしっかりと捉え、自らの考えをしっかりと打ち出している。				
	第3部	茨城県	桜川市立大和中学校	3年	真崎 杏奈	祖父の思いを受け継いで
講評	祖父の「稲作引退宣言」という一本の電話から始まる。祖父の苦しい胸の内もおもんぱかりながら中学生らしい視点で、日本の農業が抱える「高齢化」「継承」という問題に迫る。現実を受け止めつつ、将来への展望も無理なく表現している。読み手を引き付ける言葉や表現力も秀逸である。					
図画	第1部	山形県	尾花沢市立尾花沢小学校	3年	井上 花帆	うちのごはん
	講評	家族そろってのおいしい食事と団らんへの期待が、巧みに描かれている。背景とともに幸福感にあふれる家庭の雰囲気自然に醸し出されていて、その表現の技が素晴らしい。縦位置に上手に収められた構図も見事。				
	第2部	香川県	高松市立一宮小学校	6年	毛利 有寿	一粒一粒 慎重に
	講評	母と娘であろうか。ごはんを上手に炊くための方法を教わっているのだろう。家族愛が見事に描き表されている。スケッチ力と構図も非常に優れていて、今後も作者の一層の成長が期待される作品である。				
	第3部	埼玉県	深谷市立深谷中学校	3年	佐々木佑季	掛け干し
講評	刈り取られた稲束を掛ける作業が描かれた見事な作品である。稲束の質感、人物の描写もさることながら、遠景の山の連なり、空とのバランスも素晴らしい。黄金色に実った稲に囲まれ、豊作の喜びが伝わってくる。					



農林水産大臣賞（2位相当）

部門	部	都道府県	学校名	学年	受賞者氏名	作品名
作文	第1部	岐阜県	飛騨市立神岡小学校	1年	霜出 廉心	ぼくのだいじなたべもの
	講評	食物アレルギーを抱える弟との日常生活を良く捉え、表現している。「かわいそう」でとどまらず、食べられるものを工夫して調理し、それをおいしそうに食す弟の様子から、家族の温かさが伝わってくる。「食物アレルギーを持つ人のために」と将来を思い描く様子もほほ笑ましい。				
	第2部	愛媛県	今治市立大西小学校	5年	菅 こはね	みんなで作るお米
	講評	四世代家族の稲作農家に育つ。祖父母が近所の人たちと農業の有限会社を立ち上げ、協力し合いながら農業を営む様子を目の当たりにする。新しい農業のスタイルを提案した内容。「我慢強い大人になりたい」と農業に必要な心もしっかりと捉えている。				
	第3部	宮崎県	学校法人旭進学園 宮崎第一中学高等学校	2年	仲本 愛	国境を越えた一粒
	講評	海外青年協力隊員の従姉を通じて知るガボン共和国。同世代の少女から従姉に送られてきた一粒の米は、それまで当たり前に見てきた田園風景も自分の考え方も変えた。日本が行う技術協力は、改めて日本を振り返ることにもなる。視点が日本から世界へと広がっていく中学生らしい作品。				
図画	第1部	佐賀県	佐賀市立神野小学校	2年	大石 琉煌	田んぼをたがやすトラクター
	講評	機械の力のダイナミズムと効率を大いにアピールした秀逸な作品。トラクターを操縦する人物の存在がほほ笑ましく描かれていて、心和む出来栄である。小学校2年生の作品とは思えぬほどの力強さと描写力に感動を覚える作品である。				
	第2部	広島県	尾道市立長江小学校	6年	高橋 里緒	壬生の花田植
	講評	満艦飾を思わせるような牛の背の飾り付け、その背後には祭り衣装を着飾った横一列の田植えの人々や華やかさを存分に描き表して見事である。題材、スケッチ力、構図、そして作者の感性も素晴らしい。				
	第3部	佐賀県	佐賀県立武雄青陵中学校	3年	野中 咲希	田植えびより
	講評	田植えという大事な作業の情景を巧みに描いていて、見る人の心に訴える作品。的確で見事な出来栄えとしか言いようがない。空が映り込んだ、田んぼの水面の苗の列の描写も秀逸である。今後の活躍を大いに期待したい。				

全国農業協同組合中央会会長賞（3位相当）

部門	部	都道府県	学校名	学年	受賞者氏名	作品名
作文	第1部	山形県	大蔵村立大蔵小学校	2年	早坂 佑羽	かぞくのチームワーク
	第2部	長崎県	南島原市立口之津小学校	4年	松尾日与莉	おいしいお米を食べてもらいたい
	第3部	青森県	八戸市立大館中学校	3年	水石 萌菜	感謝の「いただきます」
図画	第1部	新潟県	佐渡市立沢根小学校	3年	近藤 命輝	おいしいおもちができるよ
	第2部	佐賀県	佐賀市立巨勢小学校	5年	松永 耀斗	家族で田植え
	第3部	宮城県	涌谷町立涌谷中学校	3年	島陰 紗綾	田植え



■コンクール概要

○応募資格	小学校および中学校に在籍する児童・生徒。特別支援学校の小学部、中学部に在籍する児童・生徒。
○課題 (作文・図画 両部門共通)	毎日のごはんでおいしかったことや家族とのコミュニケーション、お米・ごはん食についての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現してもらおう。
○審査員	審査会委員長 中村 靖彦氏 (東京農業大学客員教授、農政ジャーナリスト) 作文部門 竹村 和子氏 ((公社)全国学校図書館協議会常務理事) 堀米 薫氏 (児童文学作家、(一社)日本児童文芸家協会理事) 真鍋 和子氏 ((一社)日本児童文学者協会評議員、児童文学作家) 設楽 敬一氏 ((公社)全国学校図書館協議会理事長) 図画部門 岡村 泰成氏 (美術家集団「Moss Spirits」代表、日本美術家連盟会員) 小柳津須看枝氏 (日本美術家連盟会員、元サロン・ド・トウキョー運営委員) 中馬 誠二氏 (季風会同人、渋谷区文化芸術振興協議会委員) 西巻 茅子氏 (絵本作家)
○賞及び賞品	(1) 内閣総理大臣賞(作文・図画部門各1名:計2名)※1位相当 賞状と副賞(記念盾及びお米券、記念メダル) (2) 文部科学大臣賞(各部門各部門ごとに1名:計6名)※2位相当 賞状と副賞(お米券及び記念メダル) (3) 農林水産大臣賞(各部門各部門ごとに1名:計6名)※2位相当 賞状と副賞(お米券及び記念メダル) (4) 全国農業協同組合中央会会長賞(各部門各部門ごとに1名:計6名)※3位相当 賞状と副賞(お米券及び記念メダル) (5) 優秀賞(各部門各部門ごとに15名:計90名)※4位相当 賞状と副賞(記念メダル) (6) 学校奨励賞 (内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣各賞受賞者所属校:計14校)
○主催	農業協同組合、都道府県農業協同組合中央会、全国農業協同組合中央会
○後援	内閣府、文部科学省、農林水産省、全国都道府県教育委員会連合会、全国市町村教育委員会連合会、日本放送協会(NHK)、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、(公社)全国学校図書館協議会、(公社)日本PTA全国協議会、(公社)米穀安定供給確保支援機構
○協賛	全国農業協同組合連合会、全国共済農業協同組合連合会、農林中央金庫、全国厚生農業協同組合連合会、(株)日本農業新聞、(一社)家の光協会、(一社)全国農協観光協会

○応募部門・応募作品数

部 門	作文部門	図画部門	合 計
1部(小学校1年生～3年生)	16,020	40,227	56,247
2部(小学校4年生～6年生)	18,641	28,585	47,226
3部(中学校1年生～3年生)	19,454	3,727	23,181
合計	54,115	72,539	126,654

〈みんなのよい食プロジェクトとは〉

JAグループがすすめる、心と体を支える食の大切さ、国産・地元産農畜産物の豊かさ、それを生み出す農業の価値を伝えることで、国産・地元産農畜産物と日本の農業のファンになっていただくという運動です。

HP (<https://life.ja-group.jp/>)



【参考】内閣総理大臣賞（1位相当） 作文部門（第3部）

助け合い

奈良県 奈良女子大学附属中等教育学校 2年 吉中 涼

ようやく土用干しを終え、父とアゼを歩いていると、カサカサと足元の枯れ草が乾いた音をたてました。二十日間以上雨が続いたという東京とは対照的に、僕達の住む桜井は深刻な雨不足です。季節はずれの枯れ草が目につきます。僕の家周辺には水路に沿って田が並んでいますが、その水路に茶色の藻ばかりが流れる日が続きました。田の底にひび割れが出来始めた頃、水不足を解消するため、父と水路の様子を見に行きました。すると、五百メートル程上流に、水をせき止め、横の支流に流しているセキがありました。水不足の原因は、雨不足だけでは無かったのです。

この地域では八十年以上前から、田植えの時は上流の田が優先的に水を使えるしきたりだそうです。下流に行けば行く程、水はあまり流れて来ないことになります。しかし、穂が実り出す頃になるとその優先権は無くなり、止めてあるセキから自由に水を流すことが出来ると父から聞きました。それを聞いて、僕は少し違和感を覚えました。確かに水不足は困りますが、水の流れが変われば上流の田も困るはずです。今回の様な、水不足の時は尚更です。結局、僕達は大人の腰程の高さの板で止めてあるセキを、ほんの数センチメートルだけ下げて帰りました。上流の田に迷惑をかけないためには、それ以上下げられませんでした。わずかな水がゆっくりと流れ出しましたが、僕達の田に届いてくれる程の水量とは思えませんでした。

父は仕事の都合上、夜しか水の管理が出来ません。水不足も重なって、無事に収穫出来るのか不安でした。しかし数日後、僕達の田にきれいな水が流れ込んでいました。あわてて父に聞くと、近所の農家の方達が昼間に、一キロメートル程上流に行き、川に石でセキを作り、水路に水を引いてくれたおかげだと言うのです。しかも、限られた水を自分達の田だけに入れるのではなく、僕達にも分けてくれました。この行動に、僕は近所の農家の方達の誇りを感じました。

僕は今、中学校の野球部に所属しています。野球に限らず、団体競技ではよく「助け合い」という言葉が使われます。僕は、稲作も団体競技だと思います。田の面積や年齢はそれぞれ違いますが、地域という大きなチームの中で助け合えば、よりよい結果につながるはずです。祖父は亡くなる前、父に病室で、

「仕事忙がしいから、当分は米作り休んだらええよ。」

と言っていました。伊勢湾台風の年でさえ、米を収穫した祖父が、休めと言うのです。かなり環境が悪かったのでしょうか。父も休むつもりで田を耕していませんでしたが、助けてくれたのはやはり地域の方でした。何と、いつの間にか僕達の田を耕してくれたのです。まるで自分の田の様に、ていねいに耕された田は、僕達の稲作を助けてくれました。

僕達の稲作ももうすぐ三年目です。次は僕達が地域の方達を助ける番です。僕はまだ出来る事が少ないけど、父と共に地域の一員として頑張ろうと思います。地域の方達が助けてくれるのは、優しさと共に、僕達に祖父の稲作だけでなく、助け合う地域の稲作の継承を期待してくれているからではないかと考えます。僕は、桜井に住んでいて良かったと思います。

来年以降、まだまだ不安はありますが、祖父のためにも、これまで助けてくれた地域の方達のためにも、稲作に励みます。地域という大きなチームの中で、助け合いながら、僕達は稲作を継承していきます。

※作品のデータが必要な場合、作文・図画コンクール全国事務局(TEL:03-5295-7410、担当：岡田、糸山)までお問い合わせください。



【参考】 内閣総理大臣賞（1位相当） 図画部門（第3部）

めっちゃおいしいね！

三重県 鈴鹿市立白子中学校 3年 加藤 ひろな



※作品のデータが必要な場合、作文・図画コンクール全国事務局(TEL:03-5295-7410、担当：岡田、糸山)までお問い合わせください。



耕そう、大地と地域の未来。JAグループ

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 表彰式 ご取材申込み書

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール広報事務局 行

FAX:03-3457-7515

平成 30 年1月 11 日(木)までにFAXにてご返信をお願い申し上げます。

◎貴社名： _____

◎媒体名／番組名： _____

◎部署名： _____ ◎お名前： _____

◎参加人数： _____ 名 ◎掲載・放送予定日： _____ 月 _____ 日

◎TEL： _____ ◎FAX： _____

◎撮影について： あり (ビデオ ・ スチール) なし

■会場

東京・品川 品川プリンスホテル

メインタワー26階 (パール 26)

東京都港区高輪 4-10-30

<電車>

新幹線、JR線、京浜急行線の品川駅(高輪口)より
徒歩2分

■スケジュール

平成 30 年1月 13 日 (土)

12:30 取材受付

13:00 開会挨拶 (JA全中 会長 中家 徹)

13:10 表彰式

14:00 閉会

■出席者(予定)

主催者 会長 中家 徹、常務理事 石堂 真弘

来賓 各省庁代表者、後援・協賛団体代表者

受賞者 内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、
農林水産大臣賞、全国農業協同組合中央会会長賞の各受賞者



この件に関するお問い合わせ先

※作品内容の照会、データについて

作文・図画コンクール全国事務局 (日本農業新聞広報局事業開発部内) 担当: 岡田、糸山
TEL: 03-5295-7410 FAX: 03-5295-3370 携帯: 080-5943-5917 e-mail: sakuzuga@agrinews.co.jp

※取材対応について

作文・図画コンクール広報事務局 担当: 松本
TEL: 03-3457-7571 携帯: 090-6111-9766 e-mail: matsumoto@medico-pr.co.jp

